一条戻橋

【平安】

1995年に再建されたこの一見普通の橋は、何世紀にもわたり、ぞっとするような伝説の数々に登場してきました。京都が日本の首都になった794年に最初に造られ、主要な大通りであった一条大路の一部をなしていました。918年の怪談のような出来事後、「戻ってくる橋」を意味する現在の名称が付けられました。

伝説によると、浄蔵という僧侶が京都から遠く離れた地で修行していたとき、父親が死にそうだという知らせを受けました。浄蔵は急いで家に帰りましたが、都に着いた頃には父の死から5日が経っており、すでに葬列が行進しているところでした。浄蔵は一条橋で行列に追いつき、父の棺に向かって必死に祈りました。

すると空が暗くなり、浄蔵の父が死後の世界から一時的に戻ってきて、二人は別れの言葉を交わしました。その後、この橋は葬列が避けて通るようになりましたが、多くの怪談やその他の文学作品によく出てくる舞台となりました。